№2010-27 新規
平成22年9月

新規実施項目のお知らせ

謹啓　時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
このたび、下記の検査項目を新たに受託開始いたしますので、ご利用いただきたくご案内いたします。
当社におきましては皆様のご要望に幅広くお応えすべく研鑽を重ねてまいりますので、今後とも引き続きお引き立てのほどよろしくお願い申し上げます。

敬 白

記

■実 施 日

平成　22 年 10月 1日（金）ご依頼分より

■新規実施項目

検査項目	● ラモトリギン

■ 新規項目内容一覧

項目ｺｰﾄﾞ（統一ｺｰﾄﾞ）	検 査 項 目	検体量	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	採血時刻	備考（製品名、薬剤名等）
Y2860	ラモトリギン	血漿 0.5	G ↓ X	凍結（21日）	3～5	特	HPLC	（μg/mL）		ラミクタール &D

特：特定薬剤治療管理料

採血容器についての注意事項
血清分離剤入り容器の使用は避けてください。薬物検査において、測定値に影響を及ぼす場合があります。

SRL Communication for Health 株式会社エスアールエル
本社：〒１９０－８５６７東京都立川市曙町二丁目４１番１９号　e-mail：di@srl-inc.co.jp
データインフォメーション　ＴＥＬ：０４２（６４６）５９１１　http://www.srl-group.co.jp/

●ラモトリギン

抗てんかん薬「ラモトリギン」血中濃度の測定を開始します。

てんかん治療は、近年の診断技術や新しい外科的治療の進歩、そして欧米では新規抗てんかん薬が続々と認可されたことにより、患者のQOLの向上に効果をあげています。

日本でも、最近になって、新しい抗てんかん薬が併用療法★1として認められ、従来の薬剤に抵抗を示す難治性てんかんの治療に期待されています。「ラモトリギン」もそのひとつで、強直間代発作、Lennox-Gastaut症候群など、成人の部分発作だけでなく、初めて小児にも認められた適用範囲の広い薬剤です。

また、ラモトリギンはグルクロン酸抱合で代謝されるため、グルクロン酸抱合を誘導する薬剤★2と併用すると血中濃度が上がりにくく、反対にグルクロン酸抱合を阻害するバルプロ酸と併用すると血中濃度が上昇しやすいという特徴があります。

これらの理由により、薬剤の効果と投与量との個人差が大きく、有効血中濃度の設定が困難な薬剤となっており、個々の症例に応じた血中濃度の管理が必要とされています。

★1　「他の抗てんかん薬で十分な効果が認められていない」場合の併用療法のみで、単独の投与はみとめられていません。

★2　フェニトイン、カルバマゼピン、フェノバルビタール、プリミドンなど。

▼疾患との関連

●てんかん

▼関連する主な検査項目

- バルプロ酸
- フェニトイン
- カルバマゼピン
- フェノバルビタール
- プリミドン
- ゾニサミド
- ガバペンチン

▼検査要項

検査項目名	ラモトリギン
項目ｺｰﾄﾞ No.	Y2860
検体量	血漿　0．5　mL
容　器	G（ヘパリン入り）　→　X（ポリスピッツ）
保 存 方 法	凍結保存してください。
保存安定性	凍結保存で21日間
所 要 日 数	3～5日
検 査 方 法	HPLC
基準値 （単位）	な　し （μg/mL）
採血時刻	な　し
診療報酬算定	特定薬剤治療管理料
備　考 （製品名、薬剤名等）	ラミクタール &D

● 臨床的意義参考文献

村崎　光邦、他：臨床精神薬理11：117～134，2008.